

有楽町線の護国寺駅を出るとすぐ、大きな白い建物が私たちを迎えた。そう、ここは日本で最大



読書の葉

No.152

田園調布学園 中等部・高等部 図書委員会

↓道に面したディスプレイには今月の新刊がずらり。



の規模を誇る出版社——講談社。 私たち「読書の葉」取材班は、 講談社の見学にやってきた。みなさんにもその魅力をお伝えできればと思う。

目次

緊急取材! 講談社のヒミツにせまる! ... P 4
GUESS WHO! ... P 6
本鍋しました ... P 10
あつまれ どうぶつの森 島の生きもの図鑑 ... P 11
映画「私だけ聴こえる」を観て ... P 12
本を気軽に楽しめる「ミュージアム」 ... P 14
めぐるめく学習マンガの世界 ... P 16

「おもしろくて、ためになる」が目指す未来像

「世界一おもしろくて、ためになる」。これは見学のはじめに教えていただいた言葉だ。明治四十二年の創業以来変わらない社訓だという。

講談社は、一年の総発行部数二億二九〇〇万冊を誇っている。一日当たりに換算すると毎日二十冊の新刊が出ることになる。近年では映画化・ドラマ化・アニメ化などのメディアミックスも多い。世界中で待つ読者たちのために、これからも講談社はアップデートし続けていくのだ。

★早速、講談社見学に出かけよう!



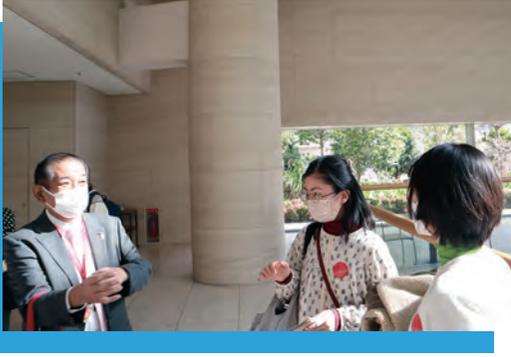
キミはいくつ知ってる? 講談社の超有名タイトル

『もったいないばあさん』(真珠 まりこ) 講談社BOOK倶楽部
『窓ぎわのトットちゃん』(黒柳 徹子, いわさき ちひろ): 講談社青い鳥文庫 講談社BOOK倶楽部
『流星の絆』(東野 圭吾): 講談社文庫 講談社BOOK倶楽部
『半沢直樹 1 オレたちバブル入行組』(池井戸 潤): 講談社文庫 講談社BOOK倶楽部
『あつまれ どうぶつの森 島の生きもの図鑑』(講談社, 伊藤 弥寿彦, 平沢 達夫, 宮崎 佑介): 講談社の動く図鑑MOVE 講談社BOOK倶楽部

いざ、ヴェールに包まれた  
出版社の中へ……

見学させていただいた「アトリウム棟」に入ると真っ先に目を引くのは、吹き抜けの天井と緑あふれる空中庭園だ。

広々とした植栽の周りの空間には多くのテーブルやイスが設置されており、打ち合わせに使っているそう。時には女優さんやモデルさんが撮影をする際の背景として使うこともあるのだとか。



オフィスフロアや廊下に所狭しと飾られた講談社作品のポスターは圧巻だ。「あの作品大好き！」と嬉しそうにカメラのシャッターを切る取材班員の様子も見られた。

文庫、単行本、新書、コミック、雑誌……多くの書籍がディスプレイされたラウンジからは講談社の長い歴史を感じ取ることが出来る。

講談社の中には、何と雑誌用の写真や子ども向けに発信する動画の撮影をするスタジオも併設され

ている。その数、なんと十一個も！今回は、たまたま撮影をした歌のお姉さんたちの収録にお邪魔させていただいた。ずらりと並ぶ機材やプロフェッショナルなお仕事の様子に、思わず息を呑む取材班。

また、見学の記念として『週刊少年マガジン』の表紙風の写真を撮れるモデル体験にも参加した。たった一枚の最高の笑顔を選ぶために何十枚もの写真を撮るのだそうだ。



エレベーターで地下階へ。扉の先で私たちを待っていたのは、講談社創立以来の出版物が全て集められた資料センターだ。ずらりと並ぶ本の数だけ、作った人の熱意を感じとることが出来る。

そして、『週刊少年マガジン』の記念すべき第一作目の複製も見せていただいた。本物は現在補修中とのことだったが、大切に管理され今も実在しているのがすごい。

この資料センターは主に校閲をする際に利用されるのだという。

『小説現代』編集長  
河北壮平さんインタビュー

最後に私たちを待っていたのは、なんと講談社の文芸誌『小説現代』の編集長である河北壮平さんだった。まさかのサプライズに驚きと喜びを隠せない取材班一同。ここできしか開けない特別なインタビューが幕を開けた。

★本の内容やデザインはどうやって決まるのですか？

小説の場合、作家が書きたいものをテーマに選んだり、編集者の方から内容を提案したりするそう

だ。  
本の「顔」となる装丁は、編集



者が作品のイメージをふくらませたり、デザイナーに依頼したりと、これまたさまざまなパターンがある。

「本づくり」という答えのない道の中で、編集者の方々のこだわりや熱い思いが感じとれた。

★編集者になるために必要な「力」ってなんですか？

多いときには一人当たり五〇〜六〇人の作家を担当することもあるという編集者。そんな仕事に大切な能力とは、ズバリ「才能を取り扱う才能」なんだそうだ。

時に作家にアイデアを提案することもある。そのため、常にアンテナをめぐらし

「自分の中に気になるテーマを持つ」ことが何より大切なのだ

という。

さらに河北さんはテレビ制作を例として、「テレビ番組を作るときはプロデュー

サー、ディレクター、マネージャー、タレントの役割が分かれているけれど、編集者は全てを兼ねる仕事だ」と説明して下さい。

★講談社文庫、青い鳥文庫、タイガ文庫などさまざまなレーベルがありますが、違いを教えてください。

講談社文庫は長い歴史を持つレーベルだが、「若い人に本を読む面白さをもっと知ってもらいたい！」という思いから生まれたのがライト文芸を扱うタイガ文庫だ。

そして、みなさんも小学生時代に夢中になったであろう青い鳥文庫。「人が死ぬような描写は避ける」など、小さい子どもでも安心して読めるように工夫されている。時代とともに求められるものが変わるなかでも、「読者を大切にしよう」というポリシーは不変のようだ。

★担当編集、制作秘話を語る！

大人気作家 風良ゆうさんの最新作『汝、星のごとく』。物語の舞台は、担当編集者である河北さんの故郷をイメージしているという。

恋愛だけではなく「人生」を描き出している本書。ぜひ一度読んでみては？



『汝、星のごとく』風良 ゆう  
©講談社



最後になりましたが、案内して下さった広報部の加藤宏樹さん、渡辺裕己子さんをはじめお世話になった皆さん、ありがとうございました!!

取材班

高2

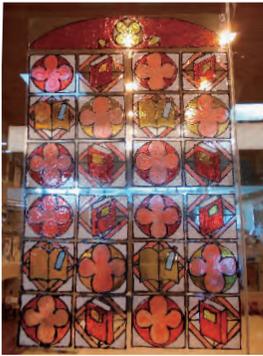
高1

中2

中3

取材2023年2月1日

# なでしこ祭 レポート



## ステンドグラス

図書館の大窓には、図書委員一同でステンドグラス風の装飾を施しました。夏休みなどに集まり、下書きから色入れまで手作りしました。一人二枚程分担して作成したステンドグラスを最後に合わせて大きな一枚に仕上げたときは、思わず「おお」と声が出るほど。在校生だけでなく来場者の方々にも、「キラキラしてきれいね」と喜んでいただけて嬉しかったです。

## 青い本

展示企画では「青」をテーマに一人ひとりが本を持ち寄り、ミニPOPを作りました。青にまつわる本(表紙が青色の本や題名に「青」が入っている本、読んだら青色がイメージできる本)が三十冊以上集まり、普段とは一味違う爽やかな図書館の風景となりました。青と一言で言っても、濃淡や表紙の色、デザインもさまざまですが、



一同に並べるとなんだか統一感も感じられ、他のどこにもないオンリーワンのコーナーができ上がりました。次はほかの色でチャレンジしても、面白い展示ができそうな予感がしました!

しかけ絵本

昨年初挑戦した仕掛け絵本づくりを、今年もしました。今年の物語は『そののしずくのおおぞらティー』。童話は委員（道端）が創作し、その後制作班の一人ひとりが物語から場面を想像して挿絵やしかけを一ページずつ担当して作りました。独特の個性が絵本になりました。集まった作品は、さながらパッチワークのよう。ちなみに現在、図書館には昨年度の主人公「トト」と、今年度の主人公「ソラ」が、並んで顔を出しています。ぜひ二人に会いに来てください！



ビブリオバトル

委員会内で定期的におこなってきた「ビブリオバトル」を、今年も来校者の方にも聞いていただけよう、文化祭企画として行いました。それぞれの本の魅力をどう表現し、どう伝えるか。そこにビブリオバトルの楽しさや面白さがあります。四冊から選ばれたチャンプ本は、『豆の上で眠る』（湊かなえ著 新潮社 二〇一四年）でした。図書館で貸出もできます。



図書館ツアー

例年行っている受験生向けの図書館ツアーは、今年度も大盛況でした。図書委員一人ひとりが丁寧にこの図書館について説明したり、質問に答えたりしていました。受験生はもちろん、ガイドを担当した図書委員たちも、改めて図書館の魅力を認識できました。



豆本

小さな本を作る豆本ワークショップも人数限定でおこないました。しおりひもの色や表紙の布を自由に選び、世界に一冊の本を作りましょう。小学生だけでなく教える私たちもワクワクする体験でした！



構成…高1  
協力…高2  
中3